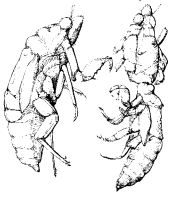


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
中医学生薬解説、参考・使用上の注意		および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
せー26	<p>せんたい 蟬退</p>  <p>クマゼミの幼虫の抜け殻</p>	<p>甘・寒 肺・肝</p> <p>中医生薬解説</p> <p>疏散風熱・利咽開音 外感風熱の発熱、咽痛、咳嗽などに、薄荷・連翹などを用いる。 風熱鬱肺、肺気失宣による嗄声、失声に、桔梗などを用いる「海蟬散」。</p> <p>透疹止痒 麻疹の初期や透疹が不十分なときに、薄荷・牛蒡子・葛根などを用いる「竹葉柳莠湯」。 蕁麻疹、湿疹など風熱や風湿熱による皮膚の瘙痒に、荊芥・防風・白蒺藜などを用いる「蟬蛻散」「消風散」。</p> <p>退翳明目 風熱による目の充血、角膜混濁（翳障）などに、菊花・白蒺藜などを用いる。</p> <p>祛風解痙 破傷風の痙攣に、白蚕散・全蝎などを用いる「五虎追風散」。 熱極生風のひきつり、痙攣には、金銀花・釣藤鈎などを用いる「清熱熄風湯」。 小児の夜泣きにも、釣藤鈎・薄荷などを用いる。</p> <p>使用上の注意 妊婦には慎重に用いる。</p>	<p>3～9g、祛風解痙には15～30g、煎服あるいは涼服。</p>